

## 政策会議 議事録

- 1 日時 令和4年6月2日(木) 14時20分 ～ 14時45分
- 2 場所 第一会議室
- 3 出席者 (構成員) 市長、大木副市長、川口副市長、峯村総務局長、神崎総合政策局長、山元財政局長、松戸環境局長、山田総務局次長、堺総合政策部長  
(付議局) 大町経済部長、高瀬企業立地課長  
(事務局) 江寺政策調整課長、金山政策調整課長補佐、河村主査、西迫主任主事
- 4 議題 次期産業用地の整備について 【方針決定】(経済農政局)

### 5 議事概要

#### 【決定事項】

- ・千葉市産業用地整備方針(案)を決定する。
- ・今年度より、鎌取IC周辺において、公募を実施する。

経済部長、企業立地課長 ～資料に沿って説明～

#### (質問・意見等)

- 山元財政局長 今年度より鎌取IC周辺で公募したいということだが、東京方面に行くには、大宮ICや蘇我ICを使うことになる。  
そこまでの道のりの渋滞対策について、道路部と協議していただきたい。
- 市長 70haの考え方は。
- 高瀬企業立地課長 これまでの産業用地をどれだけ供給していたかという実績である。  
平成24年度から今までの間に供給した産業用地が約74.1haであり、平成15年から令和元年度までの製造品出荷額等の伸びをそのまま延ばして令和14年度の推計値にしているが、その将来推計における増加分が2,668億になる。  
新規立地企業の貢献割合を企業立地補助金の実績から31.1%と推計し、これを令和14年の将来推計値における1ha当たりの生産性の向上も加味し、1ha当たりの出荷額で割り返すことで、67.1haという理論値を出した。  
理論値と実績を考慮し、70ha程度の数字が妥当だと考えた。
- 市長 建設負担金の考え方は。
- 高瀬企業立地課長 理論上の検討だが、鎌取IC周辺の地形等を考慮して、道路やライフライン等の整備に必要とされる金額を想定し、複数の事業者からも意見を伺い、概ね適正な水準であることを確認した。
- 市長 公募方法について、鎌取ICの1km圏内という対象地が1か所しかない。  
公募に応じる企業を多く集めるという観点からは課題があるように見える。
- 高瀬企業立地課長 最終的には審議会でも協議し、適切な方法を検討していきたいが、基本的には前回と同じ水準であるインターチェンジの1km圏内と打ち出していきたい。

なお、公募期間について、9月前半から1ヶ月以上の期間をとり、多くの事業者が提案可能となるようにしていきたい。

市長 前回も公募範囲の条件について様々な検討したと記憶しており、その際には複数箇所や市内全域を対象に公募をするという議論もした。

今回は、そういった課題に対応した形での公募ということによいか。

高瀬企業立地 前回の公募は複数個所とした。

課長 今回の公募は、産業用地の基礎調査の結果において、比較的可能性があるインターチェンジを含めて公募することも一つの検討になる。いずれにせよ課題に対応した形での公募となるよう審議会にて検討していただくことを考えている。

市長 次の候補地の考え方は、今回の方針決定の一つになっているのか。

高瀬企業立地 整備方針の別紙という形で掲載しており、方針決定に含まれている。

課長

市長 インターチェンジは、全てが対象ということか。

高瀬企業立地 調査や様々な検討をし、次に候補地となる可能性がある場所だけを別紙には掲載している。

課長

今後の検討において、新たな候補地が選定された際には、別紙を更新することで、事業を進めたいと思っている。

市長 環境面について、どのような配慮をするのか。

高瀬企業立地 一般的にはより厳しく配慮する流れになっており、脱炭素にも対応していかなければいけない。現在も環境保全対策書を作り、10項目全てにおいて、配慮していることが確認されないと、用地を分譲することができない協定を事業者と締結している。

課長

環境局とも協議し、脱酸素やSDGsなど、時代に即した内容に更新していきたいと考えている。

市長 いくつか意見があったが、これらに対応することを前提に、この案の通りで方針決定とする。

## — 結果 —

千葉市産業用地整備方針（案）及び鎌取IC周辺において公募を開始することについて、多くの事業者が応募することが出来るよう、公募について審議会の意見も踏まえて対応・工夫することを前提に方針決定とする。

## 6 照会先

- ・会議の運営について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043-245-5056

- ・議題について

経済農政局経済部企業立地課

TEL 043-245-5679